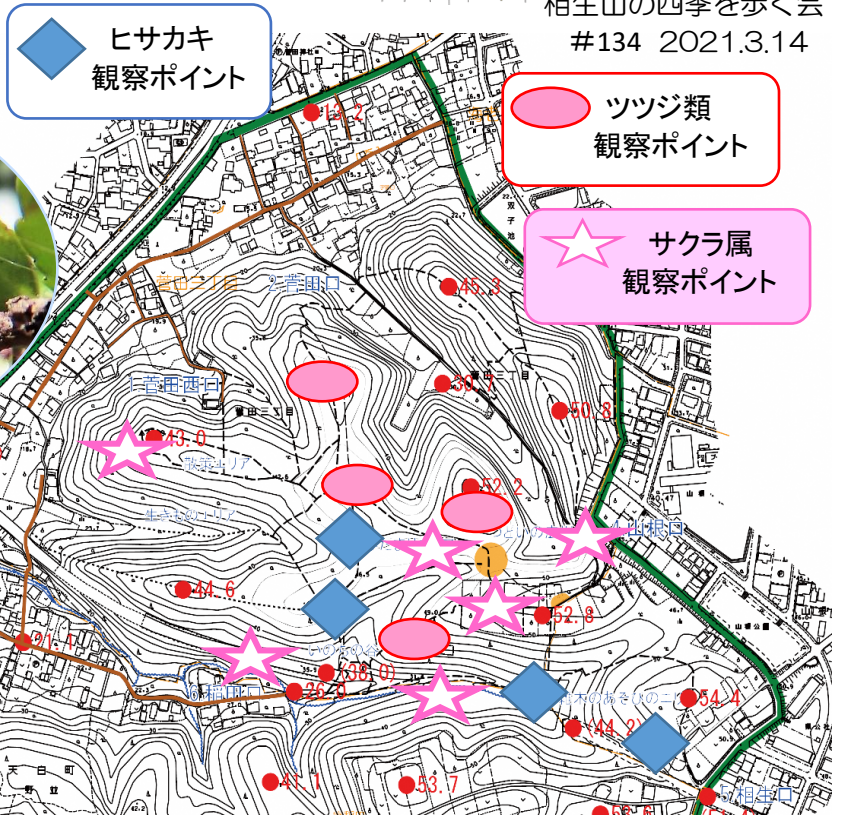


～ヒサカキの調査を始めよう～
春の森で 自然の不可思議に迫る



相生山の四季を歩く会
#134 2021.3.14



冬芽人気コンテスト結果		2021.2.14		投票参加者30人		過去('18~'20)集計		
順位	種名	漢字表記	科名	得点	投票者数	順位	得点計	投票者計
1	ウスノキ	臼の木	ツツジ	22.0	19	1	55.0	39
2	ザイフリボク	采振木	バラ	21.5	14	2	43.0	34
3	タカノツメ	鷹の爪	ウコギ	12.5	8	7	15.5	13
4	ネジキ	捻木	ツツジ	12.0	12	3	31.0	25
5	アオギリ	青桐	アオギリ	11.0	8	5	18.0	18
6	ハリエンジュ	針槐	マメ	9.0	7	13	8.5	8
7	タブノキ	楡	クスノキ	9.0	6	9	14.0	9
8	アラカシ	粗榧	ブナ	6.5	6	選外	—	—
9	ミヤマガマズミ	深山莢蒾	レンブクワ	6.5	4	対象外	—	—
10	コバノガマズミ	小葉莢蒾	レンブクワ	6.0	3	12	11.0	11
11	ヤマコウバシ	山香ばし	クスノキ	5.0	5	4	22.0	17
12	クサギ	臭木	シソ	4.0	4	25	1.0	1
13	アカメガシワ	赤芽柏	トウダイクサ	3.0	3	20	2.0	2
13	アベマキ	精	ブナ	3.0	3	選外	—	—
15	コナラ	小櫨	ブナ	2.5	3	8	14.0	11
16	クスノキ	樟	クスノキ	2.0	2	17	4.0	3
16	ヤマウルシ	山漆	ウルシ	2.0	2	16	13.0	7
18	シイ	椎	ブナ	1.5	2	21	2.0	2
19	アズキナシ	小豆梨	バラ	1.0	1	18	3.0	3
19	ヌルデ	白膠木	ウルシ	1.0	1	10	13.0	11
選外	ムラサキシキブ	紫式部	シソ	0.0	0	14	7.5	4
対象外	リョウブ	令法	リョウブ	—	—	6	16.5	16
対象外	センダン	栴檀	センダン	—	—	11	11.5	8



連絡先 (古川)
 tell/fax: 052-821-6463
 ケイタイ : 080-5124-6463
 e-mail : viva_forest@yahoo.co.jp
 ホームページ: ラブリーアース → 検索
 ブログ: 相生山からのメッセージ

その後の
冬芽たちは?
芽吹き、つぼみ、
花への変化
ウスノキ

次回は 4月11日 (日) 9:30~
 ~ 雑木林の春を ころろゆくまで楽しもう ~
 花ざかりの樹木をめぐる一日

相生山緑地基本計画 #2検討会議
100秒スピーチ（予定）読み上げ原稿

「相生山の四季を歩く会」事務局です。

いま、相生山緑地にはヒサカキの花の匂いが流れています。早春の森の匂いです。

どこにでもある身近な木ですが、不思議な性質を持っています。♀♂株が異なりますが、同じ株の同じ枝に両性花と雌花が付いたり、時には性転換が起こったりもするそうです。

一律でなく固定されない、自然そのものを象徴するような種です。



私たちは樹木や野鳥や昆虫や菌類などと親しみながら、生きものの多種多様な姿を学んできました。

ヒサカキでさえ複雑な生態を持っているのですから、私たち人間は環境や経験や教育などによって、さまざまな意見を持っているのは当然です。

まして、相生山の都市計画の課題では歴史があります。そう簡単に決着がつくはずもありません。

もしも、この「相生山緑地検討会」のような機会が、都市計画決定や工事着工前に開かれていたなら、現在のような混迷に陥ることは無かっただろうと思います。

世界規模で「新型コロナ」による大変化が起こっています。

人の意思や以前の対応ではどうにもならない想定外のことが、これからも起こってくるでしょう。

人が自然をコントロールできるとは限りません。

自然に手を入れるなら、その結果に責任を持つ覚悟が求められます。

「相生山の自然とはどういうものか」を明らかにし、その上で「どう行動すればいいのか」を相談していくことは大変重要だと思っています。

率直で平らかで開かれた意見交換が重ねられ、この試みが積み重ねられていくことは未来にも、世界規模でも、役立っていくに違いありません。

私たちの実践の一部を紹介する印刷物をご用意しました。ご意見、ご指摘を歓迎します。宜しく願いいたします。ありがとうございました。

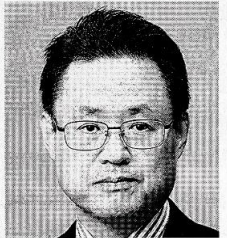
市民（地域住民、これまで相生山緑地の課題に取り組んできた団体の代表）と行政、専門家約60人によって、相生山緑地の今後を考える検討会議が開かれています。

相生山の四季を歩く会として意見発表の準備をしていましたが、「緊急事態宣言」によって延期され、今後は未定です。

ヒサカキを例に、自然と人間について問題提起しようと思いました。最近の画像を添えて紹介します。

こう見る

論説委員
三品信



熱い対決の物語を展開しつつ、矢口さんが心血を注いだのは、本来は背景にすぎない自然と、そこに息づく生命の描写だ。針にかかって跳ねる魚、釣り場を囲む木々や草。一つの情景を描くのに三日をかけたこともあるこの人は、利益最優先の開発で激変する日本の山や川、海そのものを「もう一つの主人公」としてリアルな絵姿にし、後の世へ残してくれたと言えよう。

この数カ月の本紙で、一人の読者として考えさせられた記事の一つに、五十幡将之記者の「ニュースを問う」(昨年十二月六、十三、二十日付朝刊)がある。リニア中央新幹線に静岡県が反対する理由を詳述する内容だった。

かつて県内ではダム開発や鉄道工事で住民の飲み水が失われ、ワサビや茶など特産品の生産が打撃を受けた。苦しい記憶は今も強く、県と住民はリニアのトンネル工事による水枯れを懸念する、という。なるほど。明治以来、この国は富国強兵や経済成長を掲げて土地の開発や、新しい産業と技術の導入に突き進み、その陰で自然環境を痛めつけた。それを省みない姿勢は、水俣病など数々の惨事を招いた。そして、ついには人間がテクノロジの制御を失うと

いう、あの原発事故に至る。それでも私たちは真剣な反省とは遠い。そして自然の対

極にある一人のつくりだしたものの、特に科学技術を信頼しすぎるように感じるのだ。例を挙げよう。一九七〇年に開かれた大阪万博の三菱末来館。半世紀後の二〇二〇年に、日本が「驚異の科学技術で陸・海・空を支配するようす」を見せる施設だった。そこに「台風も核爆弾で撃退。人類は完全に空を支配した」とする映像があったのだとか。半世紀が過ぎた今では冗談のようだが、一方では恐ろしい。こうした「自然をコントロールする科学技術」への憧れや妄信は、私たちに刷り込まれてはいないか。だがそんな時代にあって、自然の美と魅力をはたむきに描き続けた人がいた。

自然をいじくりまわすな

矢口高雄さん。七三年から執筆を始めた漫画「釣りキチ三平」は、主人公の三平少年が巨大魚やライバルと「釣り勝負」を繰り広げ、長く愛読される大ヒット作になった。

矢口高雄さん。七三年から執筆を始めた漫画「釣りキチ三平」は、主人公の三平少年が巨大魚やライバルと「釣り勝負」を繰り広げ、長く愛読される大ヒット作になった。

矢口高雄さん。七三年から執筆を始めた漫画「釣りキチ三平」は、主人公の三平少年が巨大魚やライバルと「釣り勝負」を繰り広げ、長く愛読される大ヒット作になった。

矢口高雄さん。七三年から執筆を始めた漫画「釣りキチ三平」は、主人公の三平少年が巨大魚やライバルと「釣り勝負」を繰り広げ、長く愛読される大ヒット作になった。

矢口高雄さん。七三年から執筆を始めた漫画「釣りキチ三平」は、主人公の三平少年が巨大魚やライバルと「釣り勝負」を繰り広げ、長く愛読される大ヒット作になった。

「コロナ禍」の情勢と3.11東日本震災の時期に、中日新聞には“人と自然”について今日的に問題提起をする論評が立て続けに掲載されました。学びの参考にcopy 貼り付けます。 ブログ:相生山からのメッセージでも取り上げています。



内山 節

哲学者



明治時代になって欧米の思想が入ってくる前は、日本人の人は、社会とは自然と人間によってつくられていると考えていた。もっと正確に述べれば、社会は自然と生者と死者によってつくられていると思っていた。自然と人間の関係が社会をつくり、生きている人間同士の関係が社会をつくる。さらにこの社会の基盤をつくってくれた亡くなった人々とも関係を結ぶことから、社会は生まれていると考えていたのである。根底には、関係こそがすべ

敵視と排除の向こうには (一部抜粋)

はない。そしてこの生態系は、ときに大きく変わり、ときには小さな変化をくり返す。恐竜時代が終わったような生態系の大きな変動もあるし、環境の変化などによって起きる小さな変容は日々私たちの周りで起こっているといってもよい。とする今日では、新型コロナウイルスが蔓延するようないかなる生態系が生まれていくということがある。私たちは新型コロナウイルスだけをみるのではなく、コロナが蔓延する生態系とは何かをとらえる努力が必要なだろう。そうでなければ、このありがたくないウイルスのいる生態系を基盤にして、これからの社会をつくっていく道はみつけられない。現在の日本の政治には、優しさが感じられない。他者への優しいまなさが消え、自分の都合だけで政治がおこなわれているかのようだ。オリンピックを成功させた人間として政治的力を高めるために、コロナの抑え込みに動いているのか見えぬ政治家もいれば、支持率を高めるためにコロナ対策をしている政治家も、病院の経営悪化回避

相生山緑地のサクラ属検索表

作成資料:山溪ハンディ図鑑「樹に咲く花」などによる

